

最終処分場

処分場の形式

当最終処分場は、自然の地形を利用し河川側を土堰堤で堰止め、しゃ水工法により施工し、その中へ焼却灰を埋立てる構造です。埋立完了後は運動場・公園等に利用されます。

しゃ水設備

埋立地のしゃ水設備は不織布（長繊維系 厚さ4mm）・しゃ水シート（加硫系ゴム 厚さ1.5mm）・不織布（長繊維系 厚さ4mm）の3層構造となっており、浸出水の流出がないよう施工されています。不織布はしゃ水シートを保護するためのものです。

さらに、最新鋭の漏水検知システムにより、自動的に埋立地内部を管理します。

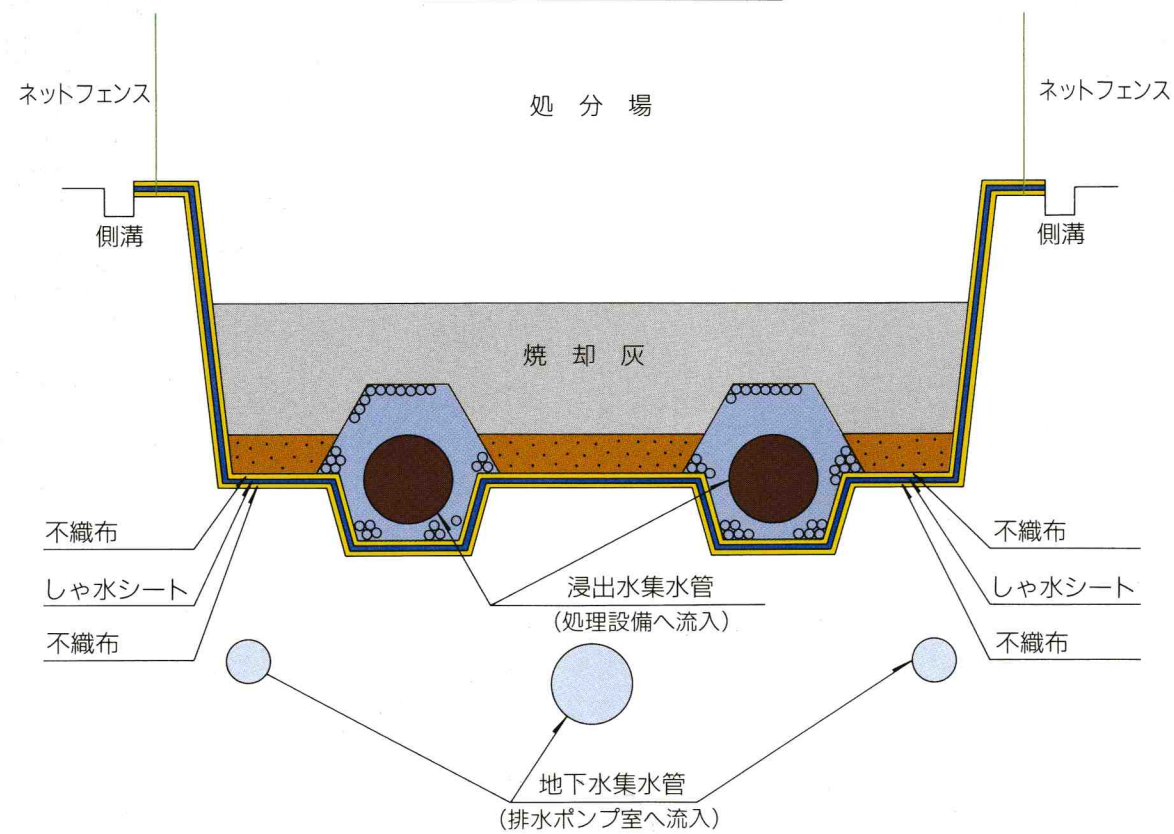
雨水（地下水）と浸出水の分離

埋立地に降った雨水は外周水路に、地下水は地下水管に、しゃ水シート上の浸出水は浸出水管に流れ込むよう計画されています。

最終放流先

浸出水は浸出水ポンプピットから調整池、処理施設へとポンプアップされ、きれいに浄化され黒川へ放流されます。

最終処分場断面図



最終処分場

